

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第1回 4技能のとらえ方

粕谷恭子（東京学芸大学）

第1回 4技能のとらえ方

1. 現状の課題

- * 「言語活動を通して」が実現していない
 - ・ 情報が少ない中での「聞くこと」
 - ・ 日本語で意味を先に与えられての「聞くこと」
 - ・ 反復練習を通しての「話すこと」
- * 指示だけあって指導がない
 - ・ 先生は指示だけ出して、実は聞いてわかるように、話せるように指導していないのではないか

第1回 4技能のとらえ方

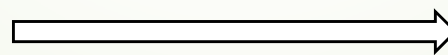
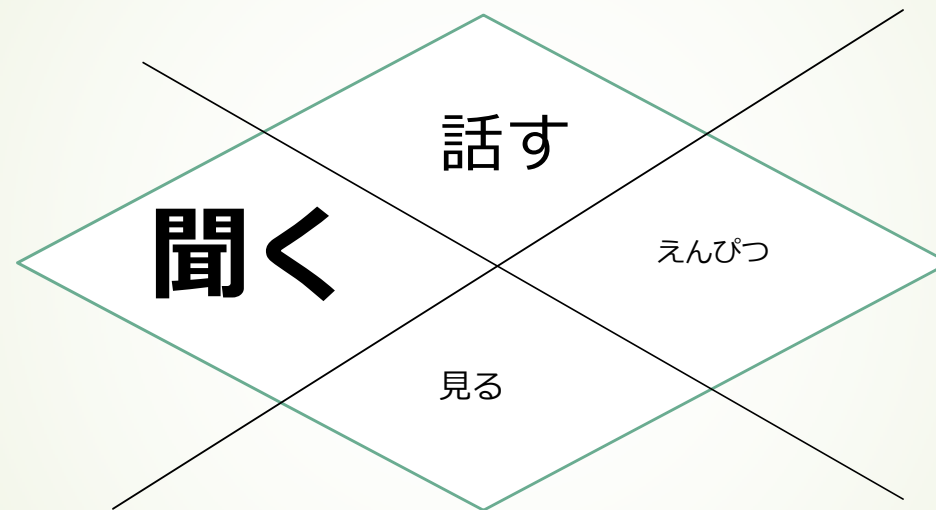
1. 現状の課題

* 圧倒的に少ない文字言語のインプット

* 降ってわいたような「書くこと」

第1回 4技能のとらえ方

2. 4技能の経験順



音声 ⇒ 文字
受信 ⇒ 発信

第1回 4技能のとらえ方

3. ひし形の見方

- * 有機的につながっている
 - ・ 独立の技能ではないことを確認
 - ・ 連綿とつながる営み
- * 初めは音だけ
 - ・ 文字不在を確認
 - ・ どっぷり音の世界に浸らせる

第1回 4技能のとらえ方

3. ひし形の見方

* 飛び越さない

- ・「見る」の部分が十分か確認
- ・「話しました、即、書きましょう」になっていないか確認

* 逆流しない

- ・発表のために原稿を先に書くことをさせていないか確認
- ・話したことを書きとめるという発想

第1回 4技能のとらえ方

3. ひし形の見方

* 「読むこと」「書くこと」は脇役

- ・ 小学校は音声中心 = 「聞くこと」「話すこと」中心
- ・ 歴史を繰り返さない

* 音声をいつくしんで育てる4年間

- ・ 中学校でもできることは中学校で

4. 次回予告

この回では、4技能のとらえ方を整理しました。

第2回から第5回では、これらの考えに基づいて
なだらかな4技能の指導の具体について扱います。